

		A. 現状の問題点	B. 当団体が考える推奨レベル	C. 当団体が考える理想レベル
1	屋根断熱	1、垂木間毎に、野地下の通気経路が確保されていない 2、野地上面の、水分の処理が甘い	1、垂木カットで、垂木間の連通性を確保する 2、工事中養生を、厳格に行う	1、垂木間毎に、排気経路を確保する 2、野地板上面の含水率対策を施す
2	換気棟	1、小屋裏換気基準ギリギリを狙う	1、小屋裏換気基準をクリアし、区画ごとのチェックを行う	1、ロケーション分析し、換気量を調節する
3	パラペット・バルコニー部	1、天端に、貫通穴を設けている 2、水平面に、滞留する水分がある 3、天端を、閉塞している	1、天端に、貫通穴を設けるのであれば、止水処置を施す 2、できるだけ水平面に、雨水が侵入しにくい処置を施す 3、天端を、開放している	1、天端に、貫通穴を設けない 2、水平面に、雨水が侵入しない納まりにする 3、天端に、台風対策をした通気阻害しない通気部材を設置する
4	軒ゼロ	1、雨仕舞が甘い 2、通気経路上に、ボトルネックがある 3、職能の取り合いで、問題が起こる	1、雨仕舞できるよう、軒の出を極力出す 2、通気経路上に、ボトルネックができない様注意する 3、できるだけ、多能工業者を使う	1、ゼロ軒でも、雨仕舞が良い部材で、納まりを標準化する 2、通気経路上にボトルネックが少ない納まりを標準化する 3、できるだけ、職能数を抑える納まりにする
5	入隅部	1、入隅部が、通気されていない 2、入隅部は、日陰になりやすく、相対湿度が上がりやすい 3、入隅部は、透湿防水シートが傷つきやすく、漏水原因になる	1、入隅部を、濡らさない様に養生する 2、相対湿度が上がりにくい、プランニングをする 3、傷がつかない様に、きっちり張るように注意喚起する	1、入隅部に、通気経路を設ける 2、相対湿度が上がっても問題が無い様に、通気経路を設ける 3、傷がつきにくい納まりにする
6	モルタル	1、直貼りしている 2、クラックが入る 3、オーバーハング部の吸気が取れていないケースが多い	1、通気構法を採用する 2、クラックが入らないよう、塗り厚を確保する様注意喚起する 3、オーバーハング部の吸気をとる納まりにする	1、通気構法+通気部材を採用する 2、塗り圧の不足が分かる部材を設置し、見える化する 3、専用の部材を使う
7	木材含水率	1、高気密高断熱化により、水分が以前に比べて 抜けにくい傾向にある	1、工事中雨水にかからないように、養生する 2、高気密高断熱仕様の住宅は、特に、通気換気経路の チェックを厳格にする	1、工事中雨水に晒されても問題ない通気経路を確保する 2、高気密高断熱仕様の住宅は、通気換気量を極力沢山とる
8	鋼板と木材の電食	1、電食のチェックをしていない 2、電食が起こっている	1、電食のチェックをする 2、電食可能性のある部位の、中間検査を行う	1、電食防止措置をとる 2、電食防止措置をとる
9	工事中の建物の雨がかり	1、工事中の雨がかりで、普及原因になっている	1、工事中に、躯体が濡れない様、養生する	1、工事中に、濡れても大丈夫な納まりにする
10	性能表示の劣化対策等級3	1、劣化対策等級3を取っていない	1、劣化対策等級3を取っている	1、劣化対策等級3以上の対策を行う